



説 林

幼稚園保母と母の責任

タツヒンゲ夫人

今日私は皆さんの前で、保母としての経験を述べると同時に母としての私の経験をたゞ経験の儘お話をしやうと思ひます。

此頃築地と四谷の兩方の幼稚園が合併して會を開いて居りますが、それに母の遊技と云ふがござりまして、其中に小さい庭造りと云ふ遊技がござりますが、その遊技を勉強して居りました、即ち植物

を培養するは子供を保育することに就て何の様に大事であるかと云ふ事を勉強して居りました、

私共がさういふ風に花を培養することを勉強しまして此事が果して子供の性質品性に何の様に大切であるかと云ふことを研究致しました、が、之に因りて子供の學ぶことは何かと申しますと、天地間に行はるゝ天然自然の法則といふものを學ぶことでござります子供は花を栽培することに由りて天然の法則を知る、即ちそれは子供が小さい種を一旦地に下す時は彼の恩物の様に遊びたい時は出し、遊びたくない時は戸棚に仕舞ふ様なことはなりませんで、何時でも必要に応じて水を與へ土を培ふてやらねばならぬ色々世話がある、そして其世話はつまり天然の法則に従つてしなればなりません、子供の弄ぶ恩物ならば自分の勝手に捨

て、置く事は出来るが花ならば何時水を遣つて宜いか、何時土に下すかと云ふことに始終注意せねばならぬ、又餘計に水を遣つたり、遊びたい時に遊へば必らず枯れる。故に此植物の栽培によりて子供は天然の法則に従ふことを知ると同時に、よく已れを制することに慣れ、又物を愛するに従うて自分を忘れ、さうして柔順の性質を養ふといふことになりませう。

それから次に注意すべき點は其の植物の種を植ゑると夫から新しい芽が出る爲め、種が一旦死んで仕舞ふ、死んで仕舞ふてから更に新しい命が出る即ち之に由りて生命の復活といふ大切な稽古を子供が習ふ、物が美はしく成長するには一旦種が死んで仕舞はねば新しい芽が生ぜぬといふその復活の理を覺ることでありませう。

次に御話したいことは私共今フレーベルの誕生の時に當つて此頃フレーベルの生涯の事に就て子供に話しました保母としてのフレーベル、幼稚園の卒先者としてのフレーベルは餘程豪い所の人で、大變智慧もあり、力もあり、思考力に富み、想像力に富み、教育家として世の中に立ち、或る時は軍隊にも出て、軍人としてもいゝ地位を得るといふ程の人であつたのである、然るに此の如き地位は捨て、顧みず世の中に見えぬ所、小さい所、詰らぬ所の小さい子供を見て其の子供の保育法を始めた人である、名譽ある位置を得るよりも寧ろ小さい子供を育てるが必要と云ふことを知つて名譽も位置も擲ち、何方も褒めて呉れぬ働きを始めたのである、此時に獨逸の政府は大變黨派があつて、フレーベルの育てた子供は大變活潑であり勇壯であつ

たものであるから、フレーベルは或危険な黨派に這入つて居るのでないか、小さい子供に斯の如き危険の主義を吹き込まれては大變であるといふので獨逸の様な美はしき政府でありましたが、折角立てたフレーベルの幼稚園が禁止せられることになりました。夫で自分の死ぬ時は自分の立てた幼稚園が、此後果して榮えるかドウなるかも知らぬで暗黒の世の中を送つたのでござります。折角種を蒔いたけれどもドウなつたか判らぬで死んだ、所が今は幼稚園は萬國に行き涉つて何處にも擴まつて居る、幼稚園のみならず小學校でも高等學校でも大學でもフレーベルの立てた法に従つて何處にも益々此の主義は行はれる様になつたのであります。

フレーベルは自分の生涯を全く主義の爲めに犠牲

にしたことに依つて今日では萬國に必要を認められ教育の方向までも變へる様になつた、丁度今より凡そ二千年前に彼の基督が自然の働き、愛の働き、信仰の働きをなしたにも係らず、當時の人は之を十字架に掛けて殺しました、非常の苦みを掛けたのであるが、基督は自分の苦みを喜んで死にました、併しなから三日目に蘇生して遂に基督教は萬國に傳へられて、其人の主義に依つて自由か社會に得らるゝ様になつたのも其風が、まことに似た所があります。

それからモウ一人さういふ風に能く似寄つた人がある、それはモツと美はしい生活、命を他の人と與へん爲めに喜んで自分が犠牲となり、さうしてモツと美はしい命を與へる人がある、それは本當に子供を持つた母にあるのです。

其の母は自分の身といふものを全く殺し、自分といふものを考へぬよりさういふ美はしい働さが出来るのであります。母親となつた者は自分の命を自分の子供の爲めに捧げるならば、それは哀れな事であらうか、母となれば全く捧げて死なねばならぬ、それは哀れな事であるか、哀れな榮えある働さであるかと云ふことは一の疑問であります。それから此頃亞米利加の雑誌にござりました大變名高い雑誌に一の問ひができました、それは世の中に婦人として生れた方が宜いが、男子として生れたが宜いかと云ふ問ひでありました。若し此問が支那に於て、印度に於て、若くは日本に於て問はれたならば果して如何でありませう。確に婦人として生れたは運の宜いことだと答へられませうか夫とも不幸な事でありませうか。

此問題に答へるために、暫らくフレールベルの幼時の事を追懐して見ませう、御承知の通りフレールベルはお父さんは牧師でござりまして何千人の世話をしてやらねばならぬ非常に多忙な人でございまして、母は小さい時に亡くなつて繼母が參つてあつたけれども充分の注意が出来ぬでござりました、此時分からフレールベルは勉強室に這入つて、お父さんが相談したり勉強したりするを聞いて居て、子供が大人の話に注意して居たのであります、或る時お父さんが忙がしくして居るは何であるかと気が附きて、お父さんが一生懸命に働いて居るところを子供心に見ると夫は男女間の争ひと云ふことであつた、そこでフレールベルはなぜ和合せぬか、統一せぬかと云ふことを考へて、一体男と女が合はぬものならばなぜ神が男性と女性とを作つたの

であらうかと云ふことを感じて、兄さんの許へ行つて其譯を聞きました、それには兄さんも困つて庭に連れて出て小さい鳥や小さい花を見せて説き明かして上げたのである、それは花の様な小さいのも雄蕊雌蕊があるから鳥や風に依つて花粉を送つて一の實を結ぶ事を話し、鳥や植物でも神様は同じ物を作らずに、同じなものからして和合して統一するのであると云ふことを子供に判る様に話しました。其時にフレーベルはなる程と感じて、夫から大に自然界を勉強する様になりました。それからさういふ事を學んだ時に、それならば男女互ひの間に争ひのあると云ふことは、なぜであるかと云ふ原因を捜そうと云ふことを考へて、とうとう自分の勉強の結果、男女間の不統一の原因は、つまり女性が母としての生活、母としての天

分の生活を家庭で全ふせぬから起ると云ふことを發見した。母は自分の爲すべき事を能く判つて居らぬ、如何なる位置か判らぬ、婦人としての位置を貫ばぬ所から起ると云ふことを發見しました。それでフレーベルは種々の書物を書いた、「母の遊技」とか「人間の教育」とか澤山書物を書きましたが其第一の目的は女性として母としての價値を知らしめ、責任を知らしめ、それを全ふするにはドウ云ふ方法にすれば宜いかと云ふことを能く了解せしむる爲めでありました。そこで、次に婦人の働きの婦人の義務に就ての男子の爲すべき義務、爲すべき事の能力に就て少し考へて見たいと思ひます。男子は何時でも物を創造する力を有つて居る、そうして世の中で最も名高い人は男、名高い文學者も男であり、名高い美術

家も婦人の手にあらずして男子の手にある、又政治家、英雄、豪傑、軍人社会に於ても常に豪い創造者は男であります。

それでさういふ豪い人には、何處でも、何時でも私の知る所の場合に於ては、必らず豪い賢婦、才力ある所の母があることを知ります。グラッドストーンでもリンコンでも自から言ふ所によれば我がの斯うなつたは自分の力でなくして皆御母さんの賜であると云つて居ります、勿論有名な本を書くのも非常に豪い事であり、美はしい美術を出すのも音楽者となるのも何れも美はしい事である或は勇者となることも世の中の榮えであります。婦人は其處に立つて一つ考へねばならぬ、男子が立派な本を書くのも美術品を出すのも其他いろ／＼卓出した事を創造するのも必らず其の裏面にはお

母さんの感化力といふものがあつて、母の感化に依つて造り出すので、母は隠れた所に非常の感化力のあるといふことを覺えて貰ひたいのであります。

そこで、私は今一の問題を掲げて御話致します。即ちドウすれば吾々は理想的のお母さんになることが出来るかと云ふことであります。

第一前にも申しました通り本當の理想の母となつて豪い人へ世に出すには、とうしても、基督の生涯の様に、如何な時でも自分の責任を完ふする爲めに、自分を捨て、自分を犠牲にしてかゝらねばなりません、他を發達させる爲に、他を豪い者にする爲めには誰も見ぬ所に盡くして自分が献身的に働かねばならぬ、本當に事を盡くすにはどうしてもさうせねばならぬ、さうして社会の澤山の

人を益することが出来るのである。

それならばさういふ圓滿なる完全なる母にはドウしたならばなれませうか、自分一人演説を聞き、學校に這入り、種々の勉強することに依つてさういふ豪い母になれませうか、自分が健全の精神を以てするならばそれが出来るかと申しますに違ひそれは出来ませぬ、其力を與ふる一人の人を頼むにあらざれば理想的母として責任を全ふすることは出来ませぬ。其事を御話するは私に取ては苦しい又困難なことでありますけれども、母として此に立ち此の事を眞心から話したいと思ひますから今少し私の經驗から話しをする時を與へて貰ひたいのであります。

今亞米利加に私の二人の子供がござります、それは私位に大きくなつて居ります、一人の總領の

男の子は五年間見ませぬから、私は非常に其子を見たく思ひます。それを思ひ出す時はとても自分で制することが出来ぬ程非常に苦しく逢ひたく思ひます、所が其の自分の情を制し、何時でも力と與へ慰みを與へてくれるは基督であります。基督に依り頼みて、私は力を得るのであります。親子の間で、唯國を離れて分れて居ると云ふこと位、母として苦しい事はありませぬ。又神様は私に四人の子供を與へて下されたのであります、私の家庭に於て一番美しく、一番濶濶であり、是れこそ望み多望であると思つた子供は私と一所に僅か居つただけで、天に取られました。私共の非常に望みを置いた其子供が冷い土の中に這入つた時は其時は自分も其子と共に死にたい様な心持が致しました、

其時の苦みと云ふものは今日に於きまして、尙、それを追懐し、記憶し、思ひ出しましてドウしても取れませぬ、そらいふ追懐は何時も私の心を痛めます、それで其の子供の事を追懐することは非常に苦い事で、中々其の苦みは取れませぬ、其時に唯一の慰めを得ました、勿論人が種々慰めて呉れましたけれども夫からは決して慰めが得られませんが、たい益々苦みを増す丈けでしたが其時静かに天の聲が聞えました、今までの家庭の美はしき子は今は天に依つてあるから決して嘆くに及ばぬ、だから今迄其子供に使はんが爲めの金は他の澤山の子に使ふて行く、貴方の學んだ事も金もはや其の子供に費す必要がないから他に母としての責任を知らぬ澤山の母があるから、其の子供を育てる金を以て澤山の子供を育てるが貴方の天職で

あるといふ事を知りました。

それで勿論、私が此の教育事業をする時にはいろ／＼苦みあり障害もあります。其の妨げやら困難の中に、苦みの中に幾度も望みを以て聞かせて下さるは遙か亞米利加に置かれた小い慕であります此小さな慕の事を思ひ、其の子供の事を思ひ出して、私は嗚呼何時でも斯ういふ勇氣のない事ではいかぬ、神様が子供を取つた目的はモツと澤山の子供を益する爲めと云ふことを示されたのでないかといふ事に依つて何時も慰めを得て美はしき働きをして行けます。夫で何時でも幼稚園の爲めに總ての金も捧げ命も捧げ、日本に在れば日本の幼稚園の發達せんことを何時でも望んでやつて居ります。

それからさういふ大なる非常なる試みとか、困難

に惱むばかりでなく、母として居る中に、毎日々々自分で自分を制することの出来ぬ苦みがありま
す。又感情の押へにくい事もありません、さういふ
小さい事の時々刻々起る時に之に打勝つて行くのは
誰の力であるかといへば、全く基督の力に依つて
美はしき望みを有つて居るからであります。子供
が死んで世の中に望みなく絶望して居た時に、又
美はしき望みを與へ、賢い傾向の天職を與へる者
は基督の他に果して誰がありませう。何方も出来
ぬ慰め働きを與へて下さるは何時でも基督であり
ますから、基督は實に斷へず極く美はしき友であ
るのです。

今母の側からさういふ様にお話を申しましたけれ
ども、尙貴方がた此に居らるゝ幼稚園の先生方に
對しても少しお話をしたいと思ひます。フレーベ

ルは此の如き品位圓滿なる母にしやうと思ふてお
母さんを高尚にして家庭を清くしやうと云ふ考へ
で、六ヶしき哲學的本やうら、又容易い遊戯の本や
らを書きました、夫を子供の教育に應用して貰は
ふと思ふてお母様に願ふたが、其お母さまがたは
フレーベルに倣ふて夫を活用しやう、應用しやう
と云ふことは遂に出来なかつたのでして、反つて
此に御集りの様な若い所の未だ婚禮もせられず、
學ばふと思へば學ばれ、立派な精神と身体とを有
つて居らるゝ御婦人方がフレーベルを助けて、其
人たちがフレーベルを勉強して、美はしき才知を
以て得た主義や教育法を小さい子供に用ふことが
出来て、遂には家庭にまで其の精神を吹き込んで
子供を助けると同時にお母さんも助けることが出
來たのであります。故に貴方がたの様に若い御婦

人がフレーベルの立てた時からズーツと幼稚園のためにやつて来て居るのであります。

先き程も申す通り極く若い所の、時も充分あり、それから學んだことを應用することも出来る御婦人が百年の間フレーベルの主義を繼いで来たのである、其心は各自御勉強も出来たのでせうが、母にはならぬが、澤山の子供を自分の子供と同じ様に子供として教育することに依り保育することに依りてフレーベルの主義を實行したからであります。英吉利や亞米利加は非常にお母さんの責任を重んじてドウか完全な母にならしめやうと思ふて大會とか種々な事をして進歩主義になつて居る。それは誰に依つてさうなつて居るかと申しますと全く極く若い所の幼稚園の保母方が、斯ういふ美はしき主義を知らせてやらねばならぬ、折角時が

あるから社會に知らさねばならぬと云ふので、夫と同時に萬國の母にも知らさねばならぬと云ふ所から、極く若い婦人が母の會などを始めて、それがだん／＼進歩して来たのでありまして原因は全く若い所の保母にあるのであります。

今此に坐つて居らるゝ御婦人方に申します、それは丁度歐米に於て此の如く婦人が働いた通りに、日本の社會を改良して美はしき社會を造り、責任やら義務を全ふさせやうとするならば、其の責任は貴方がた一人々々の頭に其の責任があるのですから、貴方がたは日本國のお母さんを改良するところが出来るのであります。ドウか其の責任を深く感じて日本を動かすは貴方がた保母にあると云ふことを能く御承知下さい。

終りにモウ一言申します。先き程は責任を能くお

話を申しました、其の重い所の責任を有つて居らる、皆さんはよく身を牽制し、肉体を牽制して能く其の主義を全ふせらるゝを望みます。そして其の主義を全ふし、地位を完ふすることは果して如何にあるかと云ふことを御承知を望みたい、悲嘆の來り惱みの來る時、力を與ふるは天の神であることを御承知せられんことを願ひます。



花のかたみ(承前)

雜

録

や、て、

黄泉の使愈々せまりて參り身もなかくに苦しく
相成申候、最後の思出に心のまゝを申し殘さん
のと覺悟致候へ共今は其の十が一だも述ぶるの勇
氣無之候、さりとして此の儘に永く眠らんも殘念の
極に候へば息のつかん限りを……………

其三 元來何れの國とは申さず戦に捷利を得候
國民は一般に奢侈贅澤に流れやすく其の結果は遂